

44 期浅野会 Voice No. 13

発行 2020 年 5 月 29 日

【目次】

「手前味噌」……………後藤憲幸
「コロナウイルス騒動に思ういくつかのこと」……………八木 明
「南極を訪ねて」……………砂賀芳雄
「諸々（もろもろ）サロン」は 11 年目に……………野口 至啓
「浅野総一郎の歴史を訪ねて」……………長井勉
今回は 4 名の方から原稿を頂きました。
ありがとうございました。 発行人：長井勉

手前味噌

後藤憲幸



米国 NSCA トレーニングジャーナル 2019 年 10 月号に「高齢者のためのフィジカルリテラシー」と題し、フロリダ大学 E. Paul Roetert 博士とテキサス大学 Catherine Ortega 博士の研究報告が掲載されていました。その内容を少しご紹介します。

フィジカルリテラシー-physical Literacy を直訳すれば「身体教養」になるかと思えます。スポーツ界では比較的新しい考え方です。生涯にわたり身体活動を営む価値を尊重し、責任を持って実施するための動機付け、自信、身体能力、知識と理解であり、生涯にわたる道のりを意味します、この概念は近い将来日本でも普及してゆくものと思われます。

一般に高齢者の身体活動は、様々な危険性や心臓血管系疾患ほかの病気、死亡さえも減らす方法です。また座りすぎ病（Sitting disease）は健康への悪影響を伴うと言われています。

単なるウォーキング以上の多様な運動スキルを持つことは、グローバルな観点から大切です。高齢者の身体活動を適切なレベルまで上げ、座位行動を減らす重要な資源になりそうです。

さらにご存知の方もありますが SOC 理論が紹介されています。これは Paul Baltes (1939-2003 ドイツ心理学者) が提唱した選択最適化補償の理論です。

Selection Optimization and Compensation

人は年を取るにつれより高いレベルの機能を獲得し、維持するために、生涯を通じて選択し、適応する。加齢にうまく適応する高齢者 Successful ager は獲得を最大化し喪失を最小化する。そして単なるウォーキングを超えた厳選 5 種の運動を推奨しています。

- #1 ローイング (肩、上肢)
- #2 ヒップアップ (股関節・下肢・体幹)
- #3 スクワット (股関節・下肢・体幹)
- #4 キャリオカステップ (神経系・下半身)
- #5 カーフレイズ (下肢)

これらのエクササイズは特殊なものではありませんが、姿勢・安定性・バランス・筋力の増大につながります。



(パフォーマンス Rugby W.Cup2019 横浜)

さて本題の手前味噌。浅野 AAT（アンチエイジングトレーニング）に参加しているメンバーは「ほうっ」と思われたことでしょう。

我々の AAT ではこの厳選 5 種エクササイズを毎回行っています、それも掲載された昨年からではなくもっと以前 2016 年頃からです。その意味では先進トレーニングと言えるでしょうか。

AAT は 2013 年から始まりましたが、都度エクササイズメニューはメンバーの状態、加齢に伴い改良されてきました。4 年くらい前からゴムバンドを使ったエクササイズも追加され、他にもプラスαの運動が盛りだくさん。

それに何といっても 70 歳を過ぎても高校時代の同期と一緒に体を動かすことができるのは素晴らしいことです。学校時代はそんなに口をきかなかった仲間もたくさんいます。あるいはそのつながりで新しい若い仲間やお子さんも一緒することもあり、そんな楽しい雰囲気にも包まれています。以前に書いたこと

があると思いますが、その内容を紹介します。

- 1 ウォーミングアップとして
 - ・歩行姿勢の確認
(普段何気なく歩いている姿を美しく)
 - ・呼吸法の確認
(MLBやMBAも採用している呼吸法、肩こり解消)
- 2 ストレッチいろいろな姿勢で
(身体の柔軟性、軽やかな動きへ)
- 3 ラダートレーニング
(敏捷な動き、脳トレ、キャリオカモ)
- 4 筋力トレーニング
 - ・アイソメトリックからコンセントリック
+エキセントリック
 - ・徹頭徹尾 全身強化
 - 軽(上半身、首、下半身やカーフ、道具なし)
 - 中(上半身、ローイング、下半身、ゴムバンド使用)
 - 高(腹筋、ヒップアップ、腕立、スクワット他)
- 5 体幹トレーニング
(ボディの安定、♪強健なカラダ♪づくり)
- 6 クールダウン

筋力トレーニングは、動かし方やリズムで筋肥大につながったり、あるいは別な動かし方で持久力がついたり大変奥深いものがあります。

この3月はコロナウイルスで中断していますが次回は60回目になります。普段あまり体を動かさない人、ウォーキングだけの人、あるいはひと通りやっているよという人も、このAATに足を運びその妙味や楽しいを実感しワールドレベルとも言えるトレーニングを体験されてはいかがでしょうか。

そして生涯の道の一歩を一緒にしましょう！



(2019. 08 44期懇親会)

長年、メディア業界にうごめいてきた住人の性(さが)なのか、それとも個人の成り立ちのせいなのか、小生、どうも、物ごとを正面から見る気風に欠けているところがあるようで、今回のコロナウイルス騒動にも斜めから見ている我が身を自覚している。

そこで、おおかたの反発を予想しながらも、わが斜眼に映る姿を、ふたつ、みつ。酔眼朦朧のなせるわざと受け取っていただいて、むろん結構。異論、反論もおおいに歓迎だ。

と、このあと、いったんは拙文、駄文を長々と書き連ねてみた。が、書いたのは4月8日。しばらく手元に置いたまま放っておいたところ、1~2週間で雲行きがだいぶ変わってきた。さらに1週間、様子を見ていて、うーん、これではVoiceへの投稿も控えた方がいいかな、よけいなハレーションを起こさずにすむかな、とも。そう思ったものの、斜眼はやはり斜眼。こういう捉え方をする輩もいるのかな、とこのままご笑覧いただくのではないかと思いついた次第。

斜眼に映ったうち、まずはマスク。お見事、と言ってよいほど皆さん右へならえ。斜眼には、一色に染まる景色はどうにもオソロシイ。戦中の「一億、火の玉！」「撃ちてし止まん！」(あつ、まだ生まれていなかったっけ)。

新聞やテレビ、雑誌に多くの医師、研究者が登場し解説を試みている。押しなべてマスクが飛沫を少なくする効用を認めつつも、感染予防の効果には概ね否定的に映る。ただ、医師、研究者の専門は公衆衛生、感染症、ウイルス、臨床などさまざまな分野に分かれていて、意見も微妙に異なるようだ。公衆衛生の専門家は、マスクをしていればウイルス付着の可能性のある手が、直接、目や鼻、口に触れるのを防ぐ効果はある、と肯定も。

今、この文章を書いている4月8日の前日、共同通信社が配信した記事のなかに、世界保健機関(WHO)が公表した指針があり、「マスクで感染予防できるという根拠は現在のところ存在しない…」このコピーをわが周辺のマスク愛好者に披露すると、「ふーん」「WHOは中国寄りだからなあ」と、もうひとつ芳しくない。

医師、研究者のほとんどが本音ではマスクに否定的でも、メディアから問われると、回答は曖昧になる様子も言葉の端々

から垣間見える。全否定すればネットで叩かれるからまずい、
とでも考えているのだろうか。「くしゃみをしたときの飛沫感染防
止には有効だ」くらいで発言は終わり、感染予防に否定的な
見解はめったに口にしない。

その中、テレビの討論番組に出演した医師で厚労省の元技
官が、「マスクに予防効果はありません。花粉症の人に譲って
あげて」と声を張り上げていた。花粉症の小生、くしゃみをする
のにも周囲をはばかりの身で、この発言に意を強くしましたね。

朝夕、駅の階段を上り下りする乗客を見ていて面白いこと
に気がついた。多くがエスカレーターを利用するが、マスクなしの
御仁は、ほとんどが階段を使っている。ふだんから足を鍛え、健
康に気がつかっている人は「マスクなんぞ不要」と考え実践して
いる—と見るのは、うがち過ぎかな。それとも単に品薄で手に
入らないだけ、か。

今は「新型コロナウイルス」で騒然となっているが、「旧型」のほう
の感染被害は、まるで騒がれない。どうなっているのだろう。米
国で今年の冬に旧型のインフルエンザに感染した人は 2600
万人。2600 人ではない。死者は 1 万 4000 人に達する。
この数字は CDC（米疾病対策センター）の推計だ。

CDC は、今もしばしばメディアに登場する感染症の調査、研
究で世界の最先端の機関。それだけ多数の感染者、死者が
出ていても、特段、騒ぎにはなっているとは寡聞にして知らな
い。

米国で今冬、流行したのとまったく同じ型のインフルエンザ
の被害で、日本国内では一昨年に 3325 人亡くなっている。
国の人口動態統計調査結果だ。昨年はまだ 9 月までの統
計しかまとまっていなかったが、死者は 3000 人を超えている。新
型の死者が 100 人台の今、この旧型と同様の被害が出たら、
天と地が引っくり返るほどの騒ぎになるのではなからうか。

旧型が今、騒がれないのはワクチンもあるし治療法も分かっ
ているうえ、しばらく鳴りを潜めているからだろうか。新聞紙面に、
新型と旧型の“騒ぎ方の格差”を複数の識者がかなり大型の
コラムに書いて比較し、たしなめている。斜眼も複数回、目に
した。なかには見出しで「報道パンデミック」「一辺倒のニュース
要注意」と歌い、メディアの報道の仕方に問題があるとの指摘
もある。

テレビなどに登場している医師の中には、以上の“格差”、
二面性を考慮しているのだろう。「新型」も「旧型」と比較して
どの程度なのか、そこを冷静に考えてみるのが大事ですよと解
説している人もいる。死者が多数出た一昨年、昨年当時、メ
ディアを含め今のように大騒ぎしていましたか、と問われている
ようにも聞こえる。

「エコーチェンバー」という言葉が注目されている。エコーは反
響、チェンバーは部屋 = 閉鎖空間を表している。米国の大統
領選挙で、はじめは泡沫候補と共和党の候補者選びの中で
さえも見なされていたトランプ氏が、予想を覆して共和党候補、
ついには大統領に当選したのもネット上のエコーチェンバー現
象の結果だ、という解説がある。

限られた閉鎖空間の中で、同じ意見の人が互いを同志とし
て称え合っているうちに、その信念が増幅し強化される。極端
に偏った意見でも、ニセ情報でも、仲間うちで反響が反響を
呼び、それが、やがて社会全体、国全体を飲み込んでいく。
「新型コロナウイルス」の引き起こしている騒動で、似た趣を感じると
思うのは、これもまたうがちすぎか。

新型コロナウイルスは、確かに危険で、まだまだ分からない
点があり警戒が必要だ。感染後、急速に重症化することもある。
アフリカでエボラ出血熱が出現し、致死率 50%以上と
恐れられたが、現地で調査に当たったウイルス研究者の中には、
エボラを教訓に、15 年も前に現在の状況を予見して、
都市封鎖が必要になるかもしれない、社会経済に大打撃を
及ぼす危険性がある、と警鐘を鳴らしていた専門家もいたと
報じられている。

他方、ドイツの首相メルケル氏は物理学者でもあるが、国民
の 6~7 割が感染すれば国全体の免疫力が上がって感染の
拡大は止まるだろうと述べ、大変なバッシングを浴びた。疫学
者からすればもったもなしな意見でも、現状では感染が判明するだ
けで大騒ぎになっている。感染者の 8 割が軽症だとも伝えら
れ、事態が今後、さらに悪化する危険性はあるものの、もっと
冷静に正しく恐れる姿勢は必要ではないか。

以上、斜眼に映ったまま、気ままに長々と書いてみた。とこ
ろが、4 月 7 日に出された緊急事態宣言は、当初、7 都府
県が対象だったが、いまや全国に拡大している。医療現場の
混乱や営業自粛による経済的打撃も、極めて深刻のようだ。
世界各国の死者数も大幅に増えている。

マスクも今や、つけたほうがよいという医師が増えてきている。
その一方で、使い方が適切でないと、かえって感染の危険が
増すと注意を促す医師もメディアに登場している。

さて、どうしようか。物議を醸すオソレありで、やっぱり Voice
に載せるのは見送った方がよいのか。それとも、当初感じたまま
の思いをそのまま提出してご笑覧いただくか。まっ、いずれに
しろ斜眼のなせる技、いまさらじたばたしても、で、そのままに。
まな板のコイ。（了）

南極を訪ねて

砂賀 芳雄

大学時代の友人に誘われて、軽い気持ちで参加したが、南極は遠かった。トルコ・イスタンブール経由でアルゼンチンのウシュアイアまで、乗継時間を含めて飛行機で約 35 時間、そこから船で 2 日かけて、南極大陸に着く。

旅行前に東京で、環境保護の規則や動植物、気候などの説明を受けた。

- ①南極大陸は時計回りの南極周極流によって暖流が遮断されており、巨大な冷蔵庫になっている。
- ②南極はサハラ砂漠より乾燥している。年間降水量は 200mm 以下。気温が低い為、雪が融けずに降り積もって氷床を作る。平均氷厚は 1800m 余、最大 4500m を超す場所もある。
- ③大陸には 3000~4000m の山々がある。活火山もある。一方で標高 - 2555m という水没していない溝としては世界一深い氷床がある。
- ④氷床は止まっておらず、重力で水飴のように低い方に流れる。海に流れ出たのが棚氷と呼ばれ、厚さは 1000m にもなる。更に海にせり出し切り離されたのが冰山。
- ⑤環境保護の為に、上陸前に靴底や衣類の清掃が必要で、ごみを捨てたり燃やしたりするのは厳禁。動植物を捕るのも勿論ダメ。コケ類を踏まない事。
- ⑥動物を脅してはいけないし、餌をやってはダメ。ペンギンは 5m、アザラシなど大型獣には 15m 以上離れる事。
- ⑦ペンギンは世界で 18 種だが、夏の南極半島付近で見るのは 2~4 種類。皇帝ペンギンは冬に繁殖するので、まず見れない。
- ⑧夏の気温は±5℃程度。曇りが多いが天候は運次第。
- ⑨今回行けるのは南極半島の中半まで。大陸全体から見ればごく一部。等々、興味をそそられたり、脅かされたり、写真に感動したりしながら、2 月中旬に出発した。

今年は南極の異常高温が話題だったが、出発地ウシュアイアでもあまり寒くない。もともと極寒の地ではないというが、街中では半袖の人すらいて、寒さに身構えていたのにちよっと調子が狂う。

夕方、「ル・ソリアル号」に乗船。フランス船籍で 1 万噸余、2012 年竣工の最新型で、乗組員 140 人、乗客は 260 人程度まで可能だが、南極は環境保護の為に一回の上陸は

100 人以下の制限がある為、今回は 200 人弱。2 組に分かれて行動する。日本人とフランス人、その他の人が約 60 人ずつ、船内の公用語は仏英語、重要な時だけ日本語が放送される。また、寄港場所は決められており、一か所には一日 2 船までしか行けないそうだ。

出港後、穏やかなビーグル水道を抜けドレーク海峡に入ると風が強く、船はゆったりと前後に揺れる。コンピュータ制御のスタビライザーがついているとはいえ、船に酔うのが先か、酒で酔っぱらうのが先かの勝負。もっとも船員によれば極めて穏やかな状態だとのこと。

予定より半日早く翌々日の午後に上陸できると船内放送があり、準備を急ぐ。服装は基本的にはスキーの格好で、靴は長靴の貸与品指定。

初上陸は、リビングス島、南極半島の北、サウスシェトランド諸島の一つ。停船したが、陸地からは結構離れているし、風が強く白波だっており、10 人乗りのエンジン付きゴムボートは大揺れ。大丈夫かと心配になる。頭からフードを被り、ボートのロープを握り締めて、波を被りながら上陸。ここは、ミナミ象アザラシとジェンツーペンギンの繁殖地で、アザラシは其処彼処にゴロゴロしており、時折雄叫びをあげる。ペンギンがよちよち歩き回るのを見て、あっという間に 1 時間が過ぎた。しかし、波は更に高くなり、危険との判断で後発組の上陸は中止。南極旅行は天候次第という事を実感した日だった。もっとも、上陸が大変だったのはこの日だけで、後は穏やかな天候に恵まれた。

夕刻、船は島から離れて南極大陸に向う。徐々に天候は回復し、大きな冰山が見え、結構興奮する。遠くのオレンジ色の建物に夕陽が当たって美しく、ビール片手に、いずこの基地かと思い巡らす。船ではアルコール類全て無料。そうは言っても、なかなか呑めないものだ。

翌早朝、南極半島のブラウンブラフ沖に停船。陸に近く、波も穏やかで、初の大地上陸に心躍る。ここでもジェンツーペンギンの大群を見物し、近くの氷河に登った。足元は長靴、凍っている場所も多く、滑りそうでペンギン同様のチョコチョコ歩きだ。

午前中に見物を終え、船は近くのポーレット島に移動、今日二度目の上陸。ここには 1903 年にスウェーデン調査隊の船が難破し、救命艇でこの島に辿り着き、20 人が越冬したという石積みの小屋跡がある。火山島なので雪が少なく助かったのかも。

トウゾクカモメがペンギンの死骸を漁っていたり、ミナミオットセイや南極アザラシがゴロゴロしてたり、アデリーペンギンがじっと立ち尽くしていたりと変化の多い島だ。サヤハシチドリが片足で立っているの、怪我でもしているのかと思ったら、寒さ対策で

片足は羽根の中に隠していた。湖の周りから碎石だらけの山を登り、海辺に戻る約 2km のハイキングは汗だくなる。山腹にたくさんのペンギンが、と見ていたら、海鷗の一種スグロ胸白ヒメウの群だった。

夕方船は次の目的地に向けて出発したが、次々に氷山が現れる。もう氷山も当たり前になってきて、のんびりと眺められる。基本的に船は夜大きく移動し、午前と午後には一回ずつ 1～2 時間の上陸かゴムボートによるクルージング。その間に食事し、酒も飲まなきゃいけないし、結構忙しい。夜は当日のおさらいと、翌日の予定の説明が、日仏英語毎に行われる。

翌日は「南極らしくない場所」と紹介されたスパーク島周辺をクルーズ。海にそそり立つ岩山の間や大きな洞窟を通り、氷河を見ながら小さな氷を掻き分けてボートが走り、なかなか楽しい。

船に戻ってノンビリしていたら、「前方にクジラ」の船内放送、慌ててカメラを手にデッキを駆け上がる。尾や背びれが見え隠れして、時々潮を吹く。船は暫くクジラを追った後、夕方に南極半島ポータルポイント沖に停泊。大陸二度目の上陸だ。あまり動物はおらず、雪山を登って景色を眺めた。

3 日目の朝、船はエンタープライズ島沖に投錨しており、7時半からクルーズとの案内放送があり、食事もそこそこにボートに乗り込んだ。天候晴れ、風なく、寒くなく最高だ。岩肌の緑・黄色は羊歯植物で、ここまで成長するのに百年の時間が必要だと。ただ、ガイドの説明が英語なので、細かいところの理解がちょっと…。この辺は 1920 年頃に捕鯨の盛んだったところで、海岸近くには小屋の跡や、難破した捕鯨船の残骸が見える。ボートから海を見ていると、ビニールのようなものが浮いており、環境汚染もここまで進んだかと思ったら、オキアミだった。透明で 5cm くらいの寒天のよう、中の赤い塊は内臓だという。注意して見るとたくさんふわふわしていた。

船は更に南下、エレラ海峡をダンコー島へと向かう。その間の景色の美しい事、青い空、青い海、白い山々、所々に氷山が浮き、これぞ南極！

午後にダンコー島沖に到着、上陸して島を散策する。所々に赤い小旗がガイドによって立てられており、これに沿って歩く。氷の山を行ったり来たりするペンギンや雄叫びをあげる姿をどう写真に収めるか、アチコチ構えるが、なかなか難しい。

4 日目の早朝、船は最狭幅 500m で 1000m 級の絶壁に囲まれたルメル海峡に進む。この出口が、今回我々の到達最南端、南緯 65 度 7 分西経 46 度 1 分。海峡を抜けて船は反転し、プレノー湾に投錨。ここは浅瀬で、流れてきた氷山が座礁している氷山の溜まり場。その間をボートクルーズ

する。氷山の表面が太陽に光って青く輝き、美しい。

午後はプレノー湾にあるブース島に上陸。1904 年冒険家シャルコーが初めてフランス隊を率いて越冬した場所だそうで、フランス人が賑やかだ。雪山に登り無線塔や海辺の磁気観測所の跡を見た。山を降りたら、二頭の南極オットセイがバトル中。興奮しているとガイドが注意していた。

早目に帰船したら、ブリッジをオープンすると案内で、船長と記念写真。この船の通信環境が良いのには驚いた。南極でもインターネットがほぼ問題なく使える。感動。

5 日目、昨日の航路を戻るとネコ・ハーバーに到着。大陸 3 度目の上陸。今は夏の終わり、ペンギンは羽の抜け変わるのをじっと待っている。毛が生え変わらなると、水中で体温が維持できず死んでしまうのだそうだ。換毛すると海に戻り、オキアミや魚を食べながら極寒になる南極大陸を避けて亜南極域に行くのだとか。既に換毛したジェンツーペンギンの群が泳ぐ姿を見たが、水上を飛び跳ねて行く。早いので驚いた。

午後からはパラダイス湾に移動し、クルーズ。ここは捕鯨が盛んだった頃の避難場所で「海の男たちの楽園」が名前の由来とか。穏やかな海にアシカが寄って来たり、クジラがすぐ近くに浮上したりと、動物にも楽園のようだ。ボートから氷河の先端を眺めながら、「こんなところでワインでも飲めたら最高」と話していたら、本当に出ましたシャンパン！ガイドさんのサプライズに皆で拍手。クルーズ後は 4 回目の大陸上陸。アルゼンチンのブラウン基地の裏山に登る。登りはともかく、下りは滑った方が楽しいような場所。海に突き出た岩にペンギンが歩き、海では鯨が潮を吹いている。南極だ。

楽しかった南極もこれが最後、夜、再びドレーク海峡を戻すが、これが大変。往きとは大違いで 5～8m もの波が行く手を塞ぎ、船は前後左右にユラユラ、物が落ちる、波が窓を打つ。食欲全くなし。2 日間ベッドの上で過ごした。「魔のドレーク海峡」としては普通だそうだ。

以上



エレラ海峡



リビングス島エレファントポイントのジェンツーペンギン



プレノー湾でのボートクルーズ



パラダイス湾のクジラとジェンツーペンギン

「諸々（もろもろ）サロン」は11年目に

野口至啓

10年前の会社生活の終わり頃から友人と「諸々サロン」を立ち上げ、運営してきた。新たな友人・知人を得て、「今日用（きょうよう）と今日行く（きょういく）」が充実の日々です。

「諸々サロン」って何？

2010年5月に始まった「三密の交流会」です。月一開催で2020年4月に定例会120回になりました。この間、延べ約3,000人が参加、ここ数年は各回30名強で盛会した。友が友を呼び、知り合った方々と様々な活動をして楽しくこの10年を過ごすことができました。新旧の友人に感謝です。定例会は最終金曜日17～21時にお酒を飲みながら2人

の講師の話しと交流をする。健康・ビジネス・技術紹介・利き酒会・家族信託・家裁調停・落語会・・・会員が諸々の話題に積極的に講師をする稀な会です。残念ながら2月からはコロナ騒ぎで三密会は休会となり、代わりに「林家つる子 Zoom 落語会」を立ち上げ40名が参加しております。



毎年、忘年会は上野学園の学生・OBのサクソカルテットや岡直弥のクロマチックハーモニカでライブを楽しみました。



このサロンの活動的な友人たちと次々と分科会を立ち上げました。

「みやこ安政柑を守る会」前に活動報告はしましたが、美味しい安政柑（ブンタンの一種）を守るため、会員を募り、購入・収穫参加を毎年行った。多数の同期生が会員になって頂き、また高橋兄弟夫妻・砂賀夫妻には収穫祭にも参加頂き、大いに盛り上げて頂きました。大感謝です。11年から始まり、去年で終了しました。その間、年々地元・尾道市因島の方との交流も深まり前夜祭では「村上水軍太鼓」・「三庄神楽」なども披露して頂いた。

収穫祭 BBQ では前の浜でとれた地魚・わかめ・山で仕留めた畑を荒らすイノシシなどを刺身、鍋などで楽しんだ。

盛りだくさんで報告がまとまりません。

総一郎翁の歴史を訪ねて

長井 勉

浅野総一郎翁に関する歴史的な話題、特に事業の跡地などを訪ねました。拙文ですが、以下に記します。



(氷見の生家)



(山崎健「浅野総一郎友の会」会長)

◇「急転十起」の由来は？

総一郎翁の生誕の地は富山県氷見市藪田村、この村の実力者だった山崎善次郎は総一郎翁のよき理解者で、また商売上、金銭的に協力もしてくれた人です。上京する前のこと、商売に失敗ばかりして、借金取りに追い掛けられていた総一郎に「七転び八起きでも足りないなら、八転び九起き、九転び十起きでもしたらいいわね。大事なことは起き上がることだ」と諭したのが善次郎です。でもフィクションのような気もします。

総一郎翁の唯一信頼する友人は彼の息子、善之丞でした。その曾孫が「全国浅野総一郎友の会」の山崎健会長です。氷見市にあった「帰望郷館」の館長を務めていましたが、今では閉館され展示品は倉庫に眠っています。浅野同窓会に、これらを何とか保存・活用していただきたいと願っています。

また、他校を真似て、「同窓会」ではなく「校友会」に呼称の変更をしたらいかがでしょうか。「校友会」はOBが自主的に運営し、独自性を打ち出せると思います。100周年を契機に、総会での代議員制の導入、事務局の新設、FBの活用、各種同好会の設置、年会費から賛助金への変更、役員任期など検討・改革する時期のようです。

総一郎翁は10歳上の安田善次郎によく相談し、事業融

資の支援も受けました。そういえば中国唐の時代、太宗に仕えた優れた諫言の士、魏徴を思い出します。きっと、過ちや暴走を正してくれる善次郎は総一郎翁にとって魏徴のような存在だったのでしょう。目的を達成する組織に、このような人材は欠かせないです。

◇紫雲閣と総一郎翁



(田町札ノ辻にあった紫雲閣)



(東洋汽船ポスター)

総一郎翁は日本郵船に対抗して東洋汽船を立ち上げます。1909（明治42）年、東京・港区札ノ辻から三田にかけての土地（1万2千坪）を購入し、一流建築の粋を集め、乗船前の船客をもてなす紫雲閣（札ノ辻、三田5丁目）を建設しました。

1910（明治43）年5月、早稲田大学野球部は東洋汽船でハワイに遠征出航前、ここで壮行会を行います。同席した総長・大隈重信は、「素晴らしい建築と豪華な装飾の日本文化があり、民間外交に貢献している」と挨拶しました。実は大隈は総一郎の自宅は裏にあり、質素な家屋だと初めて知ったそうで、豪邸に生活しているとばかり思っていたことを詫言いました。そういえば明治天皇も同じ気持ちだったようです。

戦前、神名勉校長の時代に浅野中OB生がここを見学したこともあったそうです。東京空襲で全焼失し、その跡地が区立中学校となりましたが移転統合。今では三田ビジネスエリアに変身中です。余談ですが、隣のクリーニングと塀の高さで論争が続いた話もありました。また、建設前に安く材木を購入したという話を聞き、調べてみると明治維新十傑の一人、岩倉具視の神社構想が中止なり、材木商が困って安く譲ったという話です。

(参考：出町讓著『九転十起』幻冬舎)

<https://www.youtube.com/watch?v=LkhXVw-M7-s>

◇横浜で始めた石炭販売



(納入したグランドホテル)

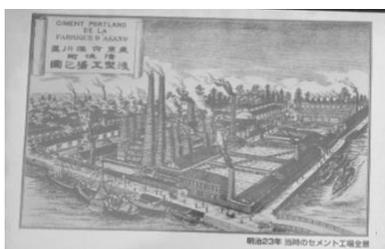
総一郎翁と横浜の関わりは 1872 (明治 5) 年頃、竹の皮販売からスタートしました。このきっかけは同郷の酒屋を営む小倉屋が面倒を見てくれました。この小倉屋は、体育の先生だった鈴木恭三先生 (あだ名をライオン) のご祖先にあたるそうです。

その後、1873 (明治 6) 年 10 月には JR 石川町近くの「亀の橋」付近に薪炭を扱う大塚屋を立ち上げ、しばらくしてチャンスがやってくる。ある石炭商が店を閉めるので石炭を引き取り、県庁、税関などに石炭を販売することができました。

販売先の一つに横浜グランドホテル (山下町 20 番地) があり、ここの支配人が W・H・スミス (通称パブリック・スピリット・スミスと呼ばれる面倒見の良い人) です。

スミスは社主が義父であるジャパン・ヘラルド社 (山下町 28 番地) を総一郎に紹介したはず。ちなみにスミスは 1866 年、アジア最古のラグビークラブ、「横浜フットボールクラブ」の設立に関わっていました。石炭配達中に総一郎は外国人がラグビーを楽しんでいる光景を 1870 年代に見たかもしれませんが。慶応義塾が YC&AC とラグビーの試合をする 30 年前の話です。

◇深川セメント工場



(現深川浅野セメントの寿像)

総一郎翁は 1884 (明治 17) 年官営の深川セメント製造所の払下げを受け、「浅野セメント」を 1912 (明治 45) 年に東京都江東区清澄に設立しました。近隣の宅地化が進み、公害問題が発生します。そこで 1917 (大正 6) 年、川崎市の海岸を埋め立て、操業することになりました。当然、地元民は深川の公害を知っているので猛反対します。

そこで総一郎は田島尋常小学校に学校建設資金 2 千円 (今の価値で 200 万円相当) を寄付しました。当時児童が多く過ぎて収容しきれなかったそうです。この写真 (川崎市文書館所蔵) が寄付金申し出の公文書です。また、清澄の深川工場跡地には総一郎の立像があります。

◇保土ヶ谷岩間町の南北石油製油所



(川沿いにあった岩間町の製油所)



(南北橋)

総一郎翁と横浜との関わりの中で、特に保土ヶ谷には縁があるようです。1906 (明治 39) 年、大倉喜八郎と一緒に「南北石油」を設立し、米国からの輸入原油で精製事業を開始した話題です。

ところが原油に関税措置が適用され、さらに輸入先の会社が他社に買収され暗礁に乗り上げました。結局、1908 年 9 月、宝田石油に売却されました。この事業は失敗に終わりました。

保土ヶ谷区岩間町 (JR 保土ヶ谷駅から相鉄天王町の間) にあった製油所は宝田石油が 1912 年まで稼働しましたが、存在した名残は全くありません。河川に流出する石油のため住民が工場移転運動をおこしたこともありました。

先日、会社名を遺す帷子川の支流である今井川にかかる「南北橋」を発見しました。写真：横浜手彩色写真絵葉書図鑑 https://yokohamapostcardclub.blogspot.com/2020/02/blog-post_8.html 『横浜市史』(第 4 巻)

◇浅野石油油槽所



(浅野石油のPRハガキ)



(横浜駅東口から徒歩5分の万里橋)

石油事業に関する話題です。総一郎翁は渋沢栄一の紹介でマーカス・サミュエル（後にシェル石油となる会社を設立）と1893（明治26）年10月、灯油の輸入契約を結んだことから始まります。浅野家の家紋は「扇」であり、販売店と「八扇会」という販売ネットワークを構築、インセンティブ制度で売り上げを伸ばしていきます。

この写真は当時の相場価格も書かれ、扇印の石油の高品質（引火点が高いこと、油煙が少ないこと）をアピールした油槽所開設10年後のハガキです。（横浜市史資料室所蔵）

実はこの時、貯蔵用タンク建設の反対運動が激化し、横浜市議会で問題視されました。総一郎翁の市会議員への根回しが功を奏し、平沼油槽所を完成したという話が残っています。油槽所から海に向けた輸送管が伸び、港から油送されました。

先日事実を調べにJR横浜駅東口から中央郵便局の先の万里橋へ。その橋から川を上る左側、今では大規模マンション一帯が「浅野石油油槽所」（同年11月15日完成）の跡地だと思われます。

ここからジョイナス駐車場の裏、相鉄線の車両の出入りが見えました。当時は海に向かって（みなとみらい方面）に輸送管が伸びていたそうです。石油による動力需要の将来を見据えた施策でしたが、長くは続きませんでした。すべてに順風満帆ではなかったですね。

参考：『100年前のエネルギー革命』

file:///C:/Users/nagai/Desktop/4.浅野関連/浅野石油_市史資料.pdf

◇日本カーリット工場保土ヶ谷工場



先日「たちばなの丘公園」（保土ヶ谷区）を訪れました。カーリット爆薬100箱が1920（大正9）年1月4日、ここから浅野セメント秩父採掘所に初出荷されました。ダイナマイトは採掘には不可欠な道具です。今から100年前の出来事です。奇しくもこの年の4月、浅野総合中学が開校しました。

さかのぼること総一郎翁がスウェーデンのカーリット社から製造・販売権を取得し、工場を建設したのは1917年です。なぜここだと思いますが、当時何もない山の中でJR保土ヶ谷駅にも車で20分程の土地だったからでしょうか。

土塁は火薬製造中に爆発や発火事故の影響が周囲に及ぼさないように工夫されていました。今では「たちばなの丘公園」として整備されています。平成7年の工場閉鎖まで緊急保安炎筒などを製造していましたが、その後群馬県渋川市に移転しました。

ところで筆者が横浜市西区在住時代、子供の頃のかすかな記憶ですが、たまに聞く爆発音に父が「またやったな」とつぶやき、当該工場での爆破事故の話聞いたことがあります。約7kmも離れていても聞こえる大爆発だったのでしょね。